

# 年次報告書および次年度活動計画書

2025年10月30日

一般社団法人日本体力医学会理事長殿  
(総務委員会宛)

名称	若手の会			
報告者	氏名	桑水 隆多	所属	筑波大学
	役割	代表世話人	E-mail	kuwamizu.ryuta.ft@u.tsukuba.ac.jp

年次活動および次年度の活動計画について以下のように報告いたします。

## 1. 年次報告

### 1.1 報告期間

2025年2月～2025年9月

### 1.2 活動実績

#### (1) 若手の会の設立および運営体制の整備

若手・アーリーキャリアの交流・研究支援・キャリア継続支援を目的として「若手の会」の立ち上げ準備を進め、代表世話人および世話人による運営体制を整えた。頻繁に打合せを行い（月2回程度）、活動方針を策定するとともに、学会内外への周知のためXアカウントを開設し、広報も開始した。

#### (2) キックオフ・シンポジウムの開催

2025年9月19日（金）、第79回日本体力医学会大会（滋賀大会）において、「日本体力医学会若手の会キックオフシンポジウム～次世代の体力医学の展望～」を開催した（10:45～12:15、C会場〔ラルカディア/R102〕）。

座長：

- 桑水 隆多（筑波大学）、鳥取 伸彬（兵庫教育大学）

演者・演題：

- 桑水 隆多（筑波大学） 「若手の会代表世話人からの趣旨説明」
- 永富 良一（東北大学） 「日本体力医学会理事長からのご挨拶」
- 花野 宏美（同志社大学大学院）ほか 「繋がる、育つ、広がる ～若手研究者の交流拠点～」
- 川間 羅聖（同志社大学）ほか 「若手の『挑戦心』を実績へ結びつける ―学会発表・論文・書籍出版の好循環を目指して―」
- 益城 優芽（東京大学大学院）ほか 「研究を続けられる環境を目指して ―若手研究者を取り巻く壁と、若手の会の挑戦」
- パネルディスカッション

シンポジウムでは、若手の会の設立背景および活動方針をそれぞれ、交流促進、研究成果支援、キャリア支援の観点から共有し、若手が学会活動に主体的に参画するための課題と展望を議論した。オーディエンスは約 80 名であり、パネルディスカッションや質疑応答も盛り上がり充実した内容となった。



### (3) 若手交流会の開催と参加者フィードバック

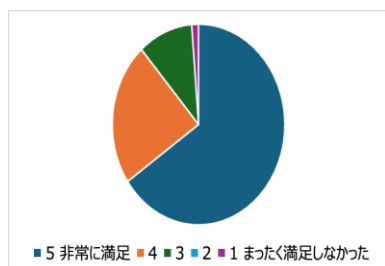
同日 12:30～13:30 に、続けて、キックオフ交流会を開催した。会場は立命館大学びわこ・くさつキャンパス内のナデシコ食堂とし、参加費無料・事前申込制（当日参加可）で実施した。企画告知は SNS も利用して周知し、当日は世話人の大石寛（佐賀大学）、平田昂大（慶應義塾大学）が司会運営にあたった。交流会には計 106 名が参加した。分野・大学・職位の異なる参加者同士が直接話せるよう、最終的に 1 グループあたり約 8 名とし、計 13 班程度に分かれて着席形式でこちらから出す議題について議論する構成とした。事前に座席を割り振ることで、初

対面同士でも話しやすい環境を整えた。会場にはケータリングを用意し開かれた場とすることをめざした。多くの参加者から満足したとの声を聞き、成功裡に幕を閉じた。



### 参加後アンケートの結果

満足度（1～5段階）について



自由記述（抜粋）

- とっても充実した時間を過ごすことができました。ご準備等、本当にありがとうございました。
- とっても交流が盛んで驚いた！気になる人への連絡をしやすいような仕組みも欲しいです！
- 学部生なので、幅広い研究分野についてやそもそもの研究について学ばせていただいた、貴重な交流会でした。
- 企画ありがとうございました！グループワークは5-6人単位にするとよいと思います
- 座席を決めていただいてありがたかったです。
- 新たな試みでとても楽しめました。今後も今回のように定期的に情報交換や交流をする機会を頂けたら嬉しいです。
- 普段色々な学会で指導教員のおかげもあり、大御所の先生方とよくお話しできる機会がおかったのですが、若手の先生との交流が少し足りていないかな、と実感している節があり参加しました。今回の交流をきっかけに、5年後、10年後共同研究などできるといいな

と、夢が膨らみました。企画ならびに当日の運営ありがとうございました。

## 2. 次年度活動計画

### 2.1 対象期間

2025年10月～2026年9月

### 2.2 大会内での企画について

次年度も、本年度と同様に、好評であったケータリングを用いた若手交流会の開催を希望する。100名程度が飲食可能スペースでテーブルを囲んで議論できる場所を希望する。昼間もしくは夕方を希望しており、アルコールを含めた提供も可能かどうか検討したい。また、プログラム後に会場外にて「親睦会・情報交換会」を開催する計画もある。

あわせて、若手の会として大会内に90分程度のシンポジウム枠を設けることを希望する。具体的なテーマは2025年10月時点では未定である。

### 2.2 運営体制

変更なし

### 2.3 活動計画

#### 2.3.1 次の日本体力医学会大会で開催する集会等の概要

##### 1) 名称（仮称可）（例：第〇回 日本体力医学会 若手の会）

- ・日本体力医学会 若手の会 交流会（ケータリング形式）
- ・日本体力医学会 若手の会 シンポジウム（仮）

##### 2) 集会の概要

- ・交流会（ケータリング形式）

次年度も、本年度と同様に、好評であったケータリングを用いた若手交流会の開催を希望する。100名程度の参加が見込まれる。

- ・若手の会 シンポジウム（仮）

あわせて、若手の会として大会内に90分程度のシンポジウム枠を設けることを希望する。具体的なテーマは2025年10月時点では未定であるが、候補として、キャリアの継続、研究業績の積み上げ方（学会発表から論文化・出版まで）を検討している。世話人内では、男女共同参画推進委員会、ECSS-JPSFMとのコラボレーション開催なども可能性として意見が上がっているが現時点でまだ未定である（また、このようなコラボが実現した場合、若手の会の

企画枠とするか別枠とするか相談事項となる。)

3) 参加予測人数 (実施を希望される場合には、会場の確保のため必ず記載してください)

交流会 : 100 名程度

シンポジウム : 70~100 名程度

2.3.2 その他、大会外での活動計画 (すでに計画中のものがあれば、名称、回数など)

12月~5月の間に、対面での若手向けワークショップを1~2回程度開催することを検討している (最低1回行うことは確定済み)。現在、他分野・他学会の若手の会との共同開催を行う方向で協議を進めている (2025年10月時点)。また、対面参加が難しい会員も含めるため、オンラインでの情報交換・相談の場を設ける可能性も検討している。

2.4 学会への要望等

以上